

2月8日 目覚めた状態も心のイメージ

「イメージ」についての考察

目覚めた状態も心の想像です。これがポイントです。皆さん思い出してください。スワプナ（夢の状態）と、ジャグラット（目覚めた状態）は、一緒です。

今からもう少し詳細に説明します。

私たちには、好きな人や嫌いな人がいますが、その相手の人には、関係がありません。その人のイメージが私たちと関わっています。私たちには、好きな人のイメージがあります。実際はその「イメージ」を愛しています。反対に嫌いな人のイメージも持っています。実際には、その「イメージ」が嫌いなのです。

好きな人が、自分の前に少しのあいだしかいませんでしたが、その自分の好きというイメージでその人を好きになっています。

例えば、ある人と喧嘩をしました。一生その人と会うことはありませんが、喧嘩をしたイメージは死ぬまで持っています。その人はいませんが、私たちの心の中には、そのイメージがずっと残っています。

また、両親は子どもをとて愛しています。しかし、子どもが大きくなると、学校や仕事で近くにはいなくなりますが、両親は、娘や息子を愛しています。遠くにいますが、その子どもを愛しているイメージを、両親は持っています。両親は自分の子どもを愛する自分の心のイメージを愛しています。

イメージはどこにありますか？私たちの心の中にあります。私たちの愛や未来は、心のイメージです。そのことを考えると、メンタルレベルで存在しています。楽しみや苦しみも、もちろん肉体も関係しますが、心のレベルで存在しています。心配事もそうです。「心配事の90%は実際には起こらない」ですが、心だけで否定的な想像をしています。楽しみも同じです。楽しみもイマジネーションです。苦しみもイマジネーションです。どちらもメンタルレベルです。

集中している時の心の状態について

また、仕事の時を考えると、2つの状態が起こります。集中して仕事をするか、無意識で仕事をするかです。ある時、集中して仕事をします。あなたの心と仕事は1つになっています。その時、あなたの心は仕事でいっぱいです。あなたの心は、別のことを考えないで、仕事のことだけに集中しています。

本当は、仕事のイメージが心の中に入っています。心が他のことをまったくイメージしないで、100%仕事のイメージをしている時、それが集中という状態です。

反対に、集中していない状態の時は、仕事でミスや間違いがいっぱい出ます。なぜなら、仕事のことを考えないで、別のことを考えているからです。それが集中していないということです。

仕事に集中する、集中しない、両方とも心に関係しています。違いは、集中して仕事をするか、集中しないで仕事をするかの違いです。

また、病気などで身体に痛みを感じたり、歯が痛くなる時があります。しかし、あなたがとても大事な仕事など予定があるとき、その時、心から歯の痛みを切り離して、心を仕事に向けます。その時、歯の痛みには気づかなくなります。

普通、手術をする時はとても痛いですが、麻酔をかけて無意識にしないと、手術は出来ませんが、シュリ

ー・ラーマクリシュナの直弟子のスワミー・トゥリーヤナンダジは、背中の中身の手術の時、背中から心を引き離すことができましたから、麻酔をしなくて手術を行いました。痛みは肉体的ですが、そこから心を引き離すと痛みの意識、痛みに対する気づきがなくなります。

シュリー・ラーマクリシュナの直弟子である、スワミー・アカンダーナンダジの生涯の話です。年老いて、身体の内側が痛くなっていました。しかし、身体が痛いにも関わらず、信者と一緒に神様のことやスワミー・ヴィヴェーカーナンダ(スワミージー)のことを長い時間話していました。夕方になりましたが、夕食も睡眠の時間もパスして、話を続けていました。

その時、お付きのお坊さんが「マハーラージ、もうやめた方がいいのではないのでしょうか、そろそろお食事をして、寝ないといけなのではないですか」と言いました。そこで、スワミー・アカンダーナンダジは、皆さんに部屋から立ち去ってもらいました。そして、「寝る前になって、私の心に、身体の内側の痛みが戻ってきました。」と言いました。

話をしている最中は、痛みに対する気づきがありませんでしたが、終わったとたんに痛みに対する気づきが戻ってきました。本当は、痛みはずっとありましたが、痛みを心から引き離していたので、その気づきはありませんでした。しかし、集中状態が切れた時、またその痛みが戻ってきました。痛みはそこにありましたが、心がそこにはありませんでした。痛みは肉体的なものですが、痛みも心が関係しています。

また、同じくシュリー・ラーマクリシュナの直弟子である、スワミー・シヴァーナンダジは喘息の病がありました。それによって、呼吸が苦しくて眠ることができませんでしたから、夜殆んど寝ていませんでした。ある日の朝、お付きのお坊さんに、シヴァーナンダジは、「昨日は、よく寝ることができました。なぜなら、私は、心を身体から引き離してアートマンに向けました。その時、身体意識はなくなったので、その時身体を休めることができました。」と言いました。

病気で眠れない時に、心を病気から引き離して、アートマンに引き戻すことで、寝ることができました。心がその状態になると、病気や肉体的な痛みに対して、無意識になる事ができます。心が大事なポイントになります。

心は常に迷い揺れている

それから、心はいつも時計の振り子のように、揺れています。sankalpa (サンカルパ)、vilalpa (ヴィカルパ)の状態です。いつも心の中に、義務について、仕事について、願いについて、やり方について、左右に揺れ動いています。「これまたはそれ」「それまたはあれ」といったように、いつも心の中で別々のイメージが出ています。毎日、何回も心がその状態になっています。「これは、あれは」だけではなく、「これについて、あれについて」別々のイメージが出ていますが、すべてイメージです。

例えば、ゴールデンウィークやお正月に長い休みが取れた時、サンカルパ、ヴィカルパになります。どのように休みを過ごすか…家にいるか、旅行に行くか、海外に旅行するか、もし行くなら、どこの国に行くかなど、イメージが出てきます。

家にいても、食事、寝る、テレビ、新聞、などのイメージが出ます。「あれやこれや」「あれについて」「これについて」いつもイメージの中で過ごしています。仕事についても、自分についても、願いについても、朝から晩まで、サンカルパ、ヴィカルパの状態です。

最終的には決めますが、決めるのに結構時間がかかります。それまで、サンカルパ、ヴィカルパの状態は続きます。そして、決めた後もそれについて想像が続きます。それは、すべて心の想像です。

また、心の3つの性質、サットワ(純質)、ラジャス(激質)、タマス(闇質)が想像するイメージも大切なポイントです。サットワ的イメージ、ラジャス的イメージ、タマスのイメージがあります。

例えば、サットワ的な人は、知人や人を見て、その人の良いイメージを心に描きます。その人の肯定的な面、その人の良い面を見ます。ホーリー・マザーが最高の見本です。ラジャス的な人は、その人の良い性質と悪い性質の両方のイメージが出ます。両方を見ます。タマス的な人は、その人の否定的な性質だけを見ます。ハエは汚いものが好きですから、ハエのような人です。

夢の時と目覚めている時は、同じ？違う？

今、2つの質問をします。

スワプナ（寝て夢を見ている時）も心の想像、ジャグラト（目覚めている時）も心の想像ですが、その2つは、何が違っていますか。スワプナは、心には、実際のものはありません（unreal）が、実際のもの（real）を想像して実際のもの（real）として見ています。（Unreal think becomes real.）

例えば、あなたは実際はベッドで寝ていますが、夢の中では、食べ物食べています。実際の上物は存在していませんが、事実として考えています。

ジャグラトの場合、実際の上物（real）が、事実ではなく（unreal）います。実際の上物がなくても、実際の上物を見たいと思う状態が、目覚めた状態の時に起きます。

私たちは、突然、タクール（シュリー・ラーマクリシュナ）のことを思い出しませんか。私たちは、突然、学校の友達のことを思い出しませんか。1分か2分、あなたはその時の状態に戻っています（Unreal think becomes real.）。その時の、友達の顔、会話、場所が、すべて現実として思い出している状態があります。事実ですが、現実ではありません。実際に、今、友人は目の前にいないし、学校も存在していません。時間も違いますが、その学生の頃を思い出した時、実際に現れています。私たちが未来について考えている時も同じです。まだ、先のことで現れていませんが、心で想像しています。想像している時は、事実ですが、実際は本当ではありません（Unreal think becomes real.）。

そのことを考えると、夢の時と目覚めている時は同じです。両方とも Unreal becomes real. 本当でないものが本当に見えますが、両者の特徴が違います。

夢の時は、Real does not become unreal. ですが、目覚めている時は Real becomes unreal. です。

目覚めた時は本当の上物が、ある時なくなり、「心ここにあらず」という言葉があります。これが「Real becomes unreal.」の状態です。教室で先生の授業を聞いていますが、先生の話が耳に入らず、別の事を考えている状態です。夢の時はその状態がありませんが、目覚めている時に、私たちが心のレベルで存在している時に、困った、間違った問題が起こります。

心は精妙な物質です。物質の特徴は、有限で、一時的で、始まりがあり、終わりがあり、変化します。ですから、その心の中を本当と思っていると、安定した至福、永遠の至福は手に入れることができません。そして、その心の存在から出ている楽しみは、ある時なくなります。それによって、皆さんの心はいつも、次の瞬間に楽しみ、次の瞬間に苦しみ、上がった、下がった、そして、安定した幸せは無理です。

もし、楽しみの上源が心にあつたら、楽しんでいたと思うと、今度は、心配がでます。自分の身体、自分の子ども、仕事、などいろいろな心配事が沢山出てきます。私たちが物質の世界で存在していると、永遠の幸せは無理です。

そして、私たちの心は、ほとんど、タマスのとラジャスのです。あまりサットワ的ではありません。それによって、心が想像することも、タマスの、ラジャスのです。心がタマスのとラジャスのになっていると、欲望、執着、貪欲、怒り、幻惑、自惚れ、嫉妬、憎しみ、恐れ、心配、束縛の問題が沢山出ます。私たちが心のレベルで存在していることが問題です。

するとある質問が起こります。「心の世俗的な面をたくさん話していますが、心の霊的な面はありませんか？

神様に祈ったり、瞑想したり、ジャパをしたりするのも、すべて心のイメージの中で行っていませんか？」と。

私たちは、実際に神様を見ていませんから、霊的实践も、心の中のイメージで行っています。

心のイメージには、世俗的なイメージと霊的なイメージがあります。

世俗的なイメージとは、心のタマスのとラジャス的な心が想像するイメージです。また、霊的なイメージは、サットワ的な心が想像するイメージです。

ラジャスとタマスのイメージは、最後には苦しみと悲しみに導きます。サットワ的なイメージは、最後には至福、知識、束縛からの解放に導きます。それがこの種類の違いです。

「ラーマクリシュナの福音」の中の、3人の泥棒の話の思い出してください。

「この神のマーヤーは、三つのグナからできている。この三つともが盗賊だ。人からその宝を全部盗んで、彼に自分の本性を忘れさせるのだから。三つのグナはサットワとラジャスとタマス、その中でサットワだけが神への道を示す。それでもサットワにさえ、人を神までつれて行くことはできない。

一つ、話をききなさい。あるとき、一人の金持ちの男が森の中を歩いていた。そこへ三人の盗賊が現れて彼の持ち物すべてを奪った。そのあとで中の一人が、『この男を生かしておいてなんになる、殺してしまえ』と言った。そして剣をぬいて斬ろうとしたとき、第二の男がこれを止めて言った、『殺してもなんにもならない、縛っておこう。そうすれば警察にとどけることもできまい』そこで彼らはこの被害者を固く縛り、その場に残留して立ち去った。

しばらくすると第三の男が金持ちのところへ戻ってきて、『ああ、ひどくけがをなされたのではありませんか。さあ、縄を解いてあげます』と言った。この盗賊は金持ちを森の外につれ出し、『この道をまっすぐにお行きなさい。らくに家に帰れます』と教えた。『いや、君もいっしょにきてくれ。これだけ親切にしてくれたのだ。家の者たちも君に会ったら喜ぶだろう』と金持ち。だが盗賊は、『いいえ、それはできません。警察につかまります』と言って、相手によく道を教えたあと、去った。

さて、『この男を生かしてなんになる。殺せ』と言った第一の盗賊は、タマスである。それは破壊する。第二の男はラジャスだ。人をこの世に縛りつけ、さまざまな活動にまき込む。ラジャスは人に神を忘れさせるのだ。サットワだけが神への道を示す。それは慈悲、正義、信仰のような諸徳を生むのだ。」

第10章 ブラフモーの信者たちとともに (二) (改訂版 P165~166)

実在（霊的）のイメージ、非実在（世俗的）のイメージ

もう一つ大切なのは、実在と非実在のイメージです。私たちが実在と思っている実在も、心の中のイメージですが、実在をイメージすると最後には、実在に行きます。真理や神様や神の化身など、実在を想像することが、実在のイメージです。その実在をイメージしていくと最後には、悟りに行きます。最初、イメージから始めますが、最終的には本物を理解できます。

例えば、シュリー・ラーマクリシュナを最初はイメージします。そのイメージにずっと集中し続けると、最終的に、シュリー・ラーマクリシュナを悟ります。サチダーナンダの状態になります。これが、Unreal becomes real.です。

反対に、非実在とは、世俗的な物事です。それをイメージすると、最初も非実在、途中も非実在、最後も非実在になります。最初も束縛、苦しみ、途中も束縛、苦しみ。最後も束縛、苦しみです。

世俗的なイメージと霊的なイメージの最終的な結果が大きく違います。

最後に質問をします。

- 1, 目覚めた状態も本当は夢です。それがはっきりわかる状態はあるでしょうか？
- 2, ジャーグラトとスワプナも本当に目覚めた状態ではありません。本当に目覚めた状態はありますか？
- 3, どのようにして、私たちは心のレベルを超越することができますか？超越できたらその状態は何ですか？
- 4, サットワの状態も超越できるでしょうか？また、トリグナの性質を全部超越することはできるでしょうか？
- 5, パンチャコーシャは、5つの鞘ですが、その中には何がありますか？その鞘は何の鞘ですか？
- 6, シャト・チャクラ（ムラーダーラ (mūlādhāra)、スワーディシュターナ (svādhiṣṭhāna)、マニプーラ (maṇipūra)、アナーハタ (anāhata)、ヴィシュツダ (viśuddha)、アーツギャー (ājñā)）。マーヤーの中にそのシャト・チャクラはあります。トリグナもマーヤーの状態ですから、苦しみ、悲しみの状態が出ています。そのシャト・チャクラも超越できますか？
- 7, 私たちは、どのようにして、サチダーナンダの状態になりますか？今、私たちはマーヤーに覆われていますが、マーヤーを超越して、どのような状態に入ると、サチダーナンダの状態になりますか？

これらの7つの質問を次のクラスの時に答えます。

2月22日 トゥリーヤの状態について

今、マナナについての話をしています。もし、参加者が講義を聞いた後、すぐにマナナをすると、理解が完璧になります。しかし、講義を聞いた後、何もしないで次の講義に参加すると、マナナをしていないので、理解のレベルは上がりません。全部の講義は、必ずマナナをしないといけません。今日の話は、前回の話と関係があります。もし、前回の話をはっきりと理解していないなら、今日の講義の理解は難しくなります。

しっかりと自分のものにするために、私が何を話したか、ゆっくり考えて、実在と非実在のイメージとは何か？なぜ実在のイメージを言っているのか？実在のイメージは、最終的に悟るためにどうして大切か？どうして非実在の結果は、最後には、苦しみ、悲しみ、束縛、になるか？を、個人的な経験に即して理解しないと、理解のレベルは上がりません。

ヴェーダーンタの勉強は、頭で理解することがとても重要です。バクティ・ヨーガでは、頭で理解することはそれほど必要ではありません。カルマ・ヨーガでもラージャ・ヨーガでもそれほど必要ではありません。しかし、ギャーナ・ヨーガではとても頭を使わないと解りません。皆さんにとって簡単ではありませんから、何回も何回もマナナの大切さを話しています。

クラスとクラスの間には2週間あります。その間、個人的に何もしないと結果もありません。

前回の7つの質問の回答

前回、前々回と、スワプナとジャーグラトの説明を何回も何回もしました。スワプナもジャーグラトも心に依存しています。どちらも夢の状態です。

そして前回、沢山の質問をしました。ヨーガの霊的な実践の方法が色々ありますが、その実践の最終目的は何ですか？ 実践の最後の状態は何でしょうか？実践の最後の結果は何でしょうか？目的、状態、結果、3つのポイントについて質問しました。

ヨーガには、カルマ、ギャーナ、バクティ、ラージャと4つのヨーガがあります。その中のラージャ・ヨーガには、シャト・チャクラ、パンチャコーシャなどの霊的なアイディアがあります。バクティ・ヨーガには、

神様への愛、というアイディアがあります。また、ジャグラー、スワプナ、スシュプティのアイディアもあります。そして、チッタ・ヴリッティ・ニローダハ（心の作用を止滅する）のための、霊的実践の方法もあります。いろいろなヨーガによって、霊的実践のやり方がバラバラですから、霊的実践の目的、状態、結果がバラバラになる可能性があります。

それらを考察して、前回、7つの質問をしました。それについての答えを説明します。

順番は前後しますが、最初の質問は、「トリグナの性質を、全部超越することはできるでしょうか？」

トゥリーヤの状態に入ると、その心の状態を超越することができます。

心の中には、タマス、ラジャス、サットワの状態があります。サットワの心は良いですが、それでも心の想像です。一時的なものですから、サットワからまた墮落する可能性があります。サットワの状態に入っても安全ではありません。では、いつ安全な状態がでるのでしょうか。

それは、バガヴァッド・ギーター14章に書いてあります。3つのグナが、どのようにアートマンを束縛しているかが、すべて書いてあります。そして、最後のアルジュナの質問は、「クリシュナ様、3つのグナを超越することができますか」というものです。それに対してクリシュナは、超越することができます、と言っています。

マナーバマナーヨス トゥッリヤス トゥッリヨー ミットラーリ パクシャヨーホ
Mānāpamānayos tulyas tulyo mitr'āri-pakṣayoḥ /

サルヴァーランバ パリッチャギー グナーティータハ サ ウッチャテー
Sarvārambha-parityāgi guṇātītaḥ sa ucyate // 14- 25

名誉と不名誉に心動かさず、友と敵を同じように扱い、仕事に対するいかなる野心も捨てた人、
以上のような人は、これら三性質を超越した人、と言えよう。

トリグナを超越した状態が「グナーティータハ」です。それがトゥリーヤの状態と同じ意味です。その状態が本当に安全な状態です。その時の至福は、永遠の至福です。

次の質問は、「目覚めた状態も本当は夢です。それがはっきりわかる状態はあるでしょうか？」。

あります。その状態がトゥリーヤの状態です。その状態に入ると、ジャグラー（目覚めた状態）もスワプナ（夢見の状態）という事がはっきりわかります。

次は、「本当に目覚めた状態はありますか？」。

あります。本当のジャグラーの状態が、トゥリーヤの状態です。その状態に入ると、その人は目覚めた人です。どなたですか。お釈迦様です。お釈迦様の名前は、仏陀（buddha）です。仏陀の意味は、「目覚めた」という意味です。普通のジャグラーの状態は、相対的です。

悟った人がみんな仏陀です。イエスも buddha、クリシュナも buddha、ラーマも buddha、シュリー・ラーマクリシュナも buddha、スワミー・ヴィヴェーカーナンダも buddha、みんな仏陀です。

ブッダ・デーヴァ、その特別な名前はとても深い意味があります。お釈迦様の前の名前は、シッタールタです。悟った後の名前がブッダと言いました。本当に目覚めた状態です。

次の質問は、「マーヤーを超越することができますか？マーヤーは消えますか？」。

マーヤーは消えます。どのようにかというと、トゥリーヤの状態に入るとマーヤーは消えます。私たちの自己はアートマンです。自由、無執着、純粹ですが、マーヤーの影響で、束縛、苦しみ、悲しみがあります。そ

ここで疑問が起こります。もともと、私の本性は純粋なアートマンなのに「いつマーヤーに覆われたか、どうしてマーヤーの中に入ったか」という質問が出ます。

そもそも、その質問自体が間違っています。私たちは、今、マーヤーの中に存在していますから、マーヤーについての質問自体が、全部マーヤーの影響による質問ですから、質問自体が正しくありません。

トゥリーヤの状態に入った時、本当に目覚めた時、その時に、質問自体が間違っていることに気づきます。マーヤーの存在は、トゥリーヤの状態に入ると、消えてなくなります。マーヤーの存在がなくなりますから、「いつマーヤーに覆われたか、いつからマーヤーが始まったか」という質問はあり得ません。

その意味は、私たちがマーヤーの中にいる間は、絶対に分かりません。トゥリーヤの状態になるとその時、「マーヤーはなかった」と分かります。

暗さの影響で、縄を蛇と間違えた話があります。光を照らすと、本当は蛇ではなくて縄だったことに気づき、蛇は想像でしかなかったことが分かりました。今、私たちはその無知の影響で、マーヤーが存在していると思っていますから、「いつマーヤーが入ったか、いつからマーヤーが始まったか」という質問が出ます。

同じように、「いつ縄に蛇が入ったか」という質問が出ます。質問自体がおかしいのです。最初から縄しかありませんが、無知の暗さの影響で、そのような質問が出ます。トゥリーヤの状態に入った後に、私たちは、マーヤーは、本当はなかったことを理解します。

次の質問は、パンチャコーシャ（五つの鞘）について、「その鞘は何の鞘ですか？」という質問です。

アンナマヤ・コーシャ、プラナマヤ・コーシャ、マノマヤ・コーシャ、ヴィギャーナマヤ・コーシャ、アーナンダマヤ・コーシャ、と鞘があります。

その中で、1番最後のアーナンダマヤ・コーシャは、アートマンに1番近いですから、アートマンのアーナンダ（至福）がでています。しかし、それはアートマンの鞘ですから、その鞘を超越しないと、本当のアートマンを見ることはできません。どのような状態に入ると、パンチャコーシャを超越することができるでしょうか。

トゥリーヤの状態に入ること、超越できます。

次に、シャト・チャクラについてです。ムラダーラ、スワーディシュターナ、マニプーラ、アナーハタ、ヴィシュダ、アーッギャーナ・チャクラです。「そのシャト・チャクラも超越できますか？」

背筋の1番下から順番にクンダリーニが上がってきます。眉間がアーッギャーナ・チャクラでとても高い状態ですが、クンダリーニがそこまで上がっても、また下がる可能性があります。

1番下から、ムラダーラ、スワーディシュターナ、マニプーラの3つのレベルの状態、その時は、肉欲、貪欲など世俗的な状態です。

アーッギャーナ・チャクラより、もっと上に上がらないといけません。それを超越しないといけません。それをシャト・チャクラ・ヴェーダといいます。それがトゥリーヤの状態です。アーッギャーナ・チャクラの更に上、最後のサハスラーラ（sahasrāra）です。シャト・チャクラ・ヴェーダでサハスラーラまで上がると墮落する可能性はありません。

そして、次の質問が、私たちの本当の本性を悟ることはどのようにしてできますか。「私たちはどのようにして、サチダーナンダの状態になりますか？」という質問でした。

私たちの本性は、魂、アートマンです。マイクロレベルで魂、マクロレベルでブラフマンです。それを悟るには、トゥリーヤの状態に入りますと、私たちの本性を理解できます。

次は、パタンジャリのヨーガ・スートラ、「チッタ ヴリッティ ニローダハ ヨーガ (Chitta vritti nirodhah yoga)」についてです。心は、いつも顕在意識や潜在意識の中で、欲望、サムスカーラがいっぱい、波が立って揺れ動いています。パタンジャリの考えで、その心の波がすべて消える必要があります。どんな状態に入るとその波が消えるのでしょうか？

トゥリーヤの状態に入ると、心の顕在意識、潜在意識の、すべての波がなくなります。

先ほど話したトゥリーヤの状態に入ると、自分の本性、ブラフマンの本性を悟ります。求道者は「瞑想する人」です。そして、「瞑想の対象」があります。そして、「瞑想」があります。この3つが1つになります。

瞑想する人、瞑想の対象、瞑想は、ブラフマンまたはアートマンと1つになります。それがトゥリーヤの状態です。別の言い方で、サマーディです。

そのサマーディとは、最高のサマーディ、ニルヴィカルパ・サマーディ、または、ニルヴィージャ・サマーディです。その時、瞑想する人、瞑想、瞑想の対象が1つになります。

ディヤータ dhyātā (瞑想する人)・ディヤーナ dhyāna (瞑想)・デーヤ dheya (瞑想の対象)、それが1つになります。このことを、ヴェーダーンタでは、「トリプティ・ヴェーダ (triputi veda)」といいます。それがニルヴィカルパ・サマーディです。

同じようにバクティ・ヨーガで考えると、バクティ・ヨーガにも、パラ・バクティ (para bhakti)、アパラ・バクティ (apara bhakti) があります。アパラ・バクティは、儀式のことです。その儀式によって、神様に対する愛が、だんだんと増えてきます。しかし、アパラ・バクティの状態の時は、家族、仕事、私、快樂、そして神様もある、という状態です。それがもっともっと進むと、パラ・バクティの状態に進みます。神様以外何もありません。私と神、神と私になります。すべての関係は神様と繋がります。それがパラ・バクティです。そして、最後の状態が、神と私が1つになります。神以外なにもありません。

それが、バクタ (信者)、バクティ (信仰)、バガヴァーン (神)、が1つになるということです。これが、パラ・バクティです。これもトゥリーヤの状態です。

「霊的实践の目的はなんですか？」…トゥリーヤの状態に入ることです。

「最高の状態とはなんですか？」…トゥリーヤの状態です。

「最高の結果はなんですか？」…トゥリーヤの状態です。

トゥリーヤの状態に入ると、永遠の至福、永遠の存在、永遠の知識、最高の至福、最高の存在、最高の知識、自由、永遠、無限の状態になります。いろいろなヨーガの種類や修行の方法の結果は、すべて同じです。トゥリーヤの状態に入ることです。

それでは、「turiya トゥリーヤ」の意味は何ですか？

1つ目は、「第四」という意味。2つ目が「最後」という意味。3つ目が「最高」という意味があります。

1, ジャグラット、2, スワプナ、3, スシュプティ、そして「四番目」、4, トゥリーヤが「最後」のステージです。「最高」の状態です。

その言葉の語源はなんですか？ サンスクリット語で、1から4までを、1st, ekam (エーカム)、2nd, dve (ドヴェー)、3rd, trīni (トリーニ)、4th, chatur (チャトゥール) といいます。

そのチャトゥールのトゥールとイーヤを合わせて、トゥリーヤとなりました。

また、マーンドゥーキャ・ウパニシャドの中に、ジャグラータは A、スワプナは U、スシュプティは M、トゥリーヤは全部合わせた A,U,M (OM) が言葉のシンボルとして書かれています。